

未来を生きる力を身に付けた、たくましい子の育成

《令和5年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

<視点1>【安全・安心の保障】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	3学期の改善策・3月での目標数値	
<p>◇いじめ・不登校への取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未然防止(居場所づくり・絆づくり)の取組推進 ・アンケート調査の計画的実施 ・児童理解の会での情報共有と共通行動 ・いじめ対策チームの日常化 ・迅速かつ組織的な初期対応 <p>◇安全教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の新しい生活様式の工夫と徹底・継続 ・登下校時の安全指導及び危機の予測と回避 ・計画的かつ実体験を伴う避難訓練の実施 ・危機管理マニュアルの充実 ・食物アレルギーへの適切な対応 	<p>【目標数値:児童「自分にはよいところがある」95%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事やクラスの活動での振り返りで、友だちのがんばりだけでなく、自分のがんばりや成長を評価し、互いに認め合う場面を設定することで、具体的な自分のよさに気づかせる取組をすすめた。 <p>課題① 自分のよさに気付かせる指導</p> <p>→・自分のがんばりや成長を評価</p> <p>・具体的な自分のよさに気づかせる</p>	児童	学校は楽しい。	100%	➡	a	4	<p>【目標数値:児童「自分にはよいところがある」95%】</p> <p>⇒96%・◎達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要因:学校行事や学級活動を通して、自分の成長や頑張りを振り返る機会を意図的に設けたことで、児童が自分について考える時間がこれまでよりも多く、自己理解が深まったのではないかと。 ▲7月と比べて、【A:よくあてはまる】の人数は増えているが、全体の6割程度にとどまっており、自信を持ってよいところがあると思っている児童が少ない。 ○児童、教員ともに安全に生活したり、ルールや決まりを守ったりすることを十分に意識している。日々、教員同士で話し合う姿もあり、安全に対する意識の高まりも感じられる。 ○ほぼすべての項目で100%となっており、学校側の安心・安全な学校づくりの取り組みが保護者にも伝わっていることがわかる。 ○「子どもたちのことをよく理解しようとしている」の項目について、数値は前回と変わっていないが、内容をみると改善が見られる。 △危機管理マニュアルを定期的に確認できていない教員が少数いる。 →安全点検日や避難訓練に合わせて危機管理マニュアルを見直すことで、危機管理への理解を深めるとともに意識を高めていく。 	<p>【目標数値:児童「自分にはよいところがある」100%】</p> <p>+【項目数値「A:よくあてはまる」75%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のがんばりや成長を評価したり、互いに認め合う場面を設定したりし、自分のよさに気づかせる取組を継続する。 【目標数値:教員「先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる」100%】 ・タイミングよく児童の言動を認めたり、価値づけたりする。 ・児童の頑張りを見つけたら用紙に記入し担任に渡して、終わりの会等で声掛けし認め合える取組をすすめる。 <p>課題① 自分のよさに気付かせる指導</p> <p>→・自分のがんばりや成長を評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさに気づかせる指導 ・児童を褒める・認める指導の充実
		保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	93%	➡	a	4		
		児童	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	100%	➡	a	4		
		児童	自分にはよいところがある。	96%	⬆	a	4		
		保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	100%	➡	a	4		
		児童	学校のきまりを守って、生活している。	100%	➡	a	4		
		教員	児童が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	⬆	a	4		
		児童	みんなで協力して取り組み、うれしかったことがある。	100%	➡	a	4		
		保護者	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4		
		保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	96%	➡	a	4		
		教員	児童同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4		
		教員	児童の小さな変化に気づいたときは、すぐ行動している。	100%	➡	a	4		
		保護者	学校は、児童の安全を守るために努力していると思いますか。	100%	➡	a	4		
		教員	定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	89%	➡	b	3		

3.9

<視点2>【学力の保障】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	3学期の改善策・3月での目標数値	
<p>◇学習に向かう基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のルールの定着(学習用具・挨拶・着ベル等) ・基盤づくりの取組(挙手・反応・ノートづくり) <p>◇対話的で深い学びへの授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習量のあるテンポのよい授業実践 ・正しい表現力をつけるための授業改善 ・適切な発問・指示 ・話し合い活動の工夫 ・外部講師を招いての研修 <p>◇ICT機器の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な一人一台端末の使用 ・ICT機器の効果的・効率的な活用 <p>◇学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習習慣づくりの取組 ・自学学習の奨励 ・補充学習等個別指導の充実 	<p>【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全職員で共通理解を図るとともに、児童が達成感や満足感を味わうことができるよう、学習量のあるテンポのよい授業を日々実践してきた。 ・校内支援体制を充実させ、困り感を持っている児童への支援のあり方について検討し共通実践してきた。 <p>課題② 学力向上</p> <p>→・学校研究の取組・テンポのよい授業</p> <p>・個別の教育的支援</p> <p>課題③ 家庭学習の改善</p> <p>→・家庭学習 量と質の改善</p> <p>・ネット利用「家庭のルール」の順守</p>	児童	授業の内容はよくわかる。	96%	➡	a	4	<p>【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」100%】</p> <p>⇒96%・◎達成できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要因:「授業の内容はよくわかる」と答えた児童の割合が上がっている。中間評価でCに回答した児童は、肯定的回答になっていた。専門相談員の派遣事業を活用し、困り感を持っている児童の支援のあり方を検討したことが効果的であった。継続していきたい。 △一人ひとりにあった課題設定が不十分。学習に困り感を持っている児童が、「できた」と思えるように、個別の教育的支援を進める必要がある。 <p>【目標数値:保護者「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか」80%】</p> <p>⇒64%・▲達成できず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●要因:○児童アンケートの「家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」への肯定的回答が増えている。多くの児童が、目標を意識して取り組んでいることが分かる。 △保護者の方の話を聞くと、「ただただ宿題に取り組んでいる」「宿題を後回しにして、寝る時間が遅くなっている」という声もあり、家庭での生活リズムの問題も関わっている。 児童が1日にインターネットを使用する時間が長くなっている。特に、7月と比べて1時間以上使用している児童の割合が、47%から54%と多くなっている。 ●要因:△子どもたちが、家庭でのインターネットのルールを意識しながら使用することができていない。 	<p>【目標数値:児童「授業の内容はよくわかる。」100%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年末に向けて、学習を定着させるための補充学習を取り入れ実践する。 ・全児童が授業で満足感や達成感を味わえるように、児童に自己決定をさせたり、学習リーダー中心の学び合いの場を作ったりして、児童主体の授業づくりをすすめる。 ・校内支援体制を充実させ、困り感を持っている児童への支援のあり方について検討し共通実践する。 <p>課題② 学力向上</p> <p>→・児童主体の授業・補充学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育的支援 <p>【目標数値:保護者「お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか」80%】</p> <p>【目標数値:保護者「お子さんは早寝・早起きをしますか。」80%】</p> <ul style="list-style-type: none"> →・家庭学習に取り組む方について、具体的な指導をすすめる。 ・早寝早起き朝ごはんチェックカードを実施する際に、実現可能な行動計画の作成を支援する。保護者とも協力してよい生活習慣の形成・継続を図る。 <p>課題③ 家庭学習の改善</p> <p>→・家庭学習 量と質の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起き等生活リズム改善
		保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	89%	⬆	b	3		
		児童	個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	⬆	a	4		
		教員	分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の積極的な活用を努めている。	83%	➡	b	3		
		児童	授業では、話し合うことで、よく分かるようになる。	100%	➡	a	4		
		教員	児童に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	⬆	a	4		
		児童	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1・2年 30分、3・4年 45分、5・6年 60分)	93%	➡	a	4		
		保護者	お子さんは、すすんで学習に取り組んでいますか。	68%	➡	d	1		
		保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿は、十分だと感じていますか。	64%	➡	d	1		
		教員	家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	➡	a	4		
		児童	規則正しく生活している。(起床・食事・就寝の時刻を守っている。)	93%	➡	a	4		
		保護者	お子さんは、早寝・早起きをしていますか。	64%	⬇	d	1		
		教員	規則正しい生活となるよう指導している。(起床・食事・就寝の時刻)	100%	➡	a	4		
		児童	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:30分未満 B:30分~1時間未満 C:1時間~2時間未満 D:2時間以上)	46%	⬇	d	1		
保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	64%	➡	d	1				
教員	ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	86%	⬆	b	3				

3.0

<視点3>【成長の保障】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果			自己評価	成果と課題及び分析	3学期の改善策・3月での目標数値			
◇体力・運動能力の向上 ・体力アップ1校1プランの推進 ・スポチャレいしかわの取組推進 ◇キャリア教育の充実 ・働くことの喜びを知る活動 ・将来の夢や希望を語る活動 ◇認め合える集団づくりの取組 ・道徳教育及び個に応じた特別支援体制の充実 ・主体的な児童会活動の取組 ・縦割り班活動の充実 ◇読書活動の推進 ・家庭読書活動の推進 ・読書ボランティアとの連携 ◇SDGsの視点での体験学習の充実 ・地域の人・もの・ことを学ぶ(本物に触れる)機会の充実 ・まちの先生の活用	【目標数値:教員「『将来の夢や希望を語る活動』に取り組んでいる」100%】 ・キャリア教育県間指導計画を再確認し、計画に沿った指導をすすめた。 課題④ キャリア教育の推進 →・キャリア教育 計画的な取組 【教員「まちの先生を積極的に活用している」100%】 ・地域を愛し、地域に愛される児童となるために、計画的なまちの先生の活用をすすめた。 課題⑤ まちの先生の推活用 →・まちの先生 学期2回以上の活用	児童	自分には夢がある。	96%	➡	a	4	B ↓ A	【目標数値:教員「『将来の夢や希望を語る活動』に取り組んでいる」100%】⇒100%:◎達成できた。 ●要因:①教員自身が、「夢を語る」ことを、学習活動の中に意図的に組み入れていた。②児童集会等で「将来・夢」について考えた後、学級でもフィードバックした。③「夢」を広く捉え、児童に「目標」を持たせ、達成を目指して取り組ませた。 △児童が互いのがんばりを認め合ったり、先生が児童のがんばりをほめたり認めたりしている数値がどちらも89%に下がっている。 ●要因:教員が、褒めたり認めたりする指導が十分だと思ってしまうのではないかと。	【目標数値:児童「自分には夢がある」100%】 ・キャリア教育県間指導計画を再確認し、計画に沿った指導をすすめる。 課題④ キャリア教育の推進 →・キャリア教育 計画的な取組
		保護者	お子さんには、夢がありますか。	89%	↑	b	3			
		教員	将来の夢や希望を語る活動に取り組んでいる。	100%	↑	a	4			
		児童	学校では、友だち同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	96%	➡	a	4			
		児童	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	89%	➡	b	3			
		児童	家族や地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	100%	➡	a	4			
		保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	89%	➡	b	3			
		児童	地域のことについて、いろいろなことを学んでいる。	96%	➡	a	4			
		保護者	学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	100%	➡	a	4			
		教員	まちの先生を積極的に活用している。	100%	↑	a	4			

3.7

<視点4>【教職員にとって働きがいのある職場づくり】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果			自己評価	成果と課題及び分析	3学期の改善策・3月での目標数値		
・個々のライフステージに合わせた受講の奨励 ・全職員での若手早期育成プログラムの計画的実践 ・業務改善の取組推進 定時退校日の実施・計画的な年休行使 一人一役での分掌・ワンペーパーでの起案 校務支援システムの活用		教員	本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	A ↓ B	◎職員全てが本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組み、教師としての力量が高まるように努めている。
		教員	教師としての力量が高まるように努めている。	100%	➡	a	4		
		教員	業務の効率化をすすめ、午後6時30分を目安に退校している。	75%	↓	c	2		

3.3

<視点5>【保護者・地域から信頼される学校づくり】

具体的な取組	2学期・取組の重点…目標数値・改善策	アンケート結果			自己評価	成果と課題及び分析	3学期の改善策・3月での目標数値		
・積極的な情報発信と開示による保護者との信頼関係の構築 ・コミュニティスクール制度を生かした「地域とともにある学校」への転換 ・公民館や地区行事と連動し、地域のよさを実感できる学習活動の企画と実施		保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いますか。	96%	➡	a	4	A ↓ A	◎保護者は、「学校と保護者との連絡は密にしている」「学校からの情報発信は十分である」と感じている。
		保護者	学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	100%	➡	a	4		
		教員	地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	↑	a	4		

4.0

《アンケート集計から自己評価までの流れ》

- アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒a
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒b
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒c
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒d
- ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、

- 以下の基準で平均値から自己評価を行う
 平均が3.6以上 ⇒A
 平均が3.0～3.5 ⇒B
 平均が2.4～2.9 ⇒C
 平均が2.3未満 ⇒D

➡ 5%以上増えている ➡ 5%以上減っている
↑ 10%以上増えている ↓ 10%以上減っている ※令和4年度後期との比較

【保護者から】
 ・うちの子のために担任の先生や先生方が温かく見守りご指導下さって私の心も助けられました。うちでもよく話をし、【ダメなこととはダメ】を伝えました。ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。(3年)
 ・補充学習のあった1カ月ほど、だいぶん疲れている様子でした。習い事も曜日と時間を変更することとなり、帰宅が遅くなり、宿題も遅くなり母娘で疲れました。補充学習は学力を上げるためにも必要だと思いますが、事前に保護者に確認をとって下さるか、希望日を作って今日は参加する、しないなどとして下さると助かります。(3年)